

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月10日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520077

研究課題名（和文）アウグスティヌス聖書解釈学の総合的研究

研究課題名（英文）Studies in Augustinian Biblical hermeneutics

研究代表者

中村 秀樹（NAKAMURA HIDEKI）

上智大学・文学部・助教

研究者番号：90468596

研究成果の概要（和文）：

本研究は、西方最大の教父アウグスティヌス(430 歿)の主著『キリスト教の教え(De doctrina christiana)』を中心にその聖書解釈学の総合的研究を目的とした。その成果として国内においては、1)同著作の新訳と註解、2)同著作に重要な影響を与えたティコニウス(400 頃歿)『規則の書(Regula)』の邦訳(初訳)と註解、3)聖書解釈史研究の重要文献(M. Simonetti, Biblical interpretation in the early Church)の邦訳、についてその刊行準備をほぼ終え、刊行への最終調整を行う段階へ到達した。また国際的研究の次元では、4)研究代表者が属する Hugo von St. Viktor Institut, Frankfurt/M と連携し、国際学会を共同企画し、4 回研究発表（内 3 回招待講演）を行った。

研究成果の概要（英文）：

Our research aims to clarify the meanings of Augustinian Biblical hermeneutics in his famous – and misunderstandable – work „De doctrina christiana“. This work is the key of the Augustinian theology, so that a precise study of the „De doctrina christiana“ is crucial. In this project we have aimed following publications: 1) a new Japanese translation of „De doctrina christiana“, 2) a Japanese translation of „Regula“ written by Donatist Theologian Ticonius († ca. 400). This work is quoted and explained by Augustine. It will be the first Japanese translation of the work, 3) a Japanese translation of an important study on Biblical hermeneutics: „Biblical interpretation in the early Church“ written by Manlio Simonetti. In the last year of this project we have almost completed the preparation process of these translations for the publication. Furthermore we presented our papers at four International Conferences: Three of them we planned in cooperation with Hugo von St. Viktor Institut, Frankfurt/M and did our presentations as „Invited Speaker“.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：教父思想、アウグスティヌス、ティコニウス、聖書解釈学、サン・ヴィクトール学派、教会論、神学的認識論、恩恵論

### 1. 研究開始当初の背景

日本を含め現代世界のあり方に大きな影響を与えているのは、ヨーロッパ思想に源を持つ様々な考え方であるが、ヨーロッパ思想を根底から理解するためには、その伝統の核心にあるキリスト教教父思想およびその展開としての中世キリスト教思想の徹底した研究が必要となる。このようなヨーロッパの伝統的キリスト教思想を基礎付けた最も重要な思想家の一人が、アウグスティヌス (Aurelius Augustinus 430 年歿) である。北アフリカの司教で、『告白 Confessiones』の著者としても知られるこの神学者は、その聖書解釈理論を主著の一つ『キリスト教の教え De doctrina christiana』において展開した。キリスト教神学の全体は聖書に基礎付けられるため、本著作は同時に著者の神学とその教育理念に関する見取り図ともなっている。そのため本著作は、その後の思想史において広範な受容を示しており、キリスト教的ヨーロッパ思想の理解のために極めて重要な研究対象である。

国内研究の現状を見るならば、現行の邦訳ではその本来的文脈であるキリスト教神学が十分に考慮されていないため、訳文は不正確であり、また現代記号論や解釈学の視点からの表層的で的外れな解説がなされている。こうした誤った傾向は日本国内での本著作に関する研究にも共通して見られるが、それは国内の研究が神学的文脈を軽視した英語圏の一部の研究に依拠してきたことにも原因がある。ドイツ語圏及びフランス語圏では 30 年以上も前に、この広範な影響を及ぼした著作が徹底してキリスト教神学の観点から読まれるべきであり、それによってはじめてその重要性が本来的に開示されることが指摘され、それについて十分な議論が展開されたが、国内の研究はこの成果を十分に考慮していない。またキリスト教神学が人文的学問領域において重要な位置を占めるヨーロッパとは異なり、国内では特殊な学問として扱われるため、キリスト教神学を十全な仕方学ぶ思想研究者は少ない。その結果、キリスト教神学そのものに関する知識不足が目立っており、それも上記の誤りを助長している。他方、国際的な研究の状況を見るならば、『キリスト教の教え』は、特にその中世における受容史に関して解明されなければならない点を多く残している。

### 2. 研究の目的

(1)国内研究に対する貢献としては、研究代表者と研究協力者が中心となり『キリスト教の教え』を本来の神学的文脈に則して新たに厳密に邦訳し、註解を行い、刊行する。その際、翻訳においては正確な原文の理解を提示し、

註解においては現在に至るまでの国内外の諸研究を網羅的に総括し、評価する。また国内の研究水準の向上のために、アウグスティヌスを中心に聖書解釈学研究の基礎文献の翻訳・刊行を行う。特にアウグスティヌスが『キリスト教の教え』を書く一つの契機ともなった異端ドナティスト派の神学者ティコニウス (Ticonius, 400 年頃歿) の著作『規則の書 Regula』は、邦訳がなく、したがって国内ではほとんど研究されていないため、その早期の翻訳と出版が必要となる。また国内では、聖書解釈学史の基礎資料が少ないため、重要な基礎文献である Manlio Simonetti : *Biblical interpretation in the early Church*, Edinburgh 1994 の翻訳研究会を研究協力者が中心になって行い、大学院生を中心とした若手研究者に参加を促す。

(2)国際的研究の次元においては、『キリスト教の教え』のヨーロッパ中世における受容史の解明に最先端の研究レベルで寄与することを目指す。『キリスト教の教え』の西洋中世思想において鍵となる受容を行ったのは、12 世紀の神学において重要な役割を担ったパリのサン・ヴィクトール学派である。サン・ヴィクトール学派の聖書解釈理論に関する最先端の研究は、研究代表者が兼任研究員をつとめる Hugo von Sankt Viktor Institut für Quellenkunde des Mittelalters, Frankfurt am Main において進められており、その基礎研究の成果は昨年、研究史において決定的重要性を持つ包括的な研究書 ( *Bibel und Exegese in der Abtei Saint-Victor zu Paris. Form und Funktion eines Grundtextes im europäischen Rahmen*, Aschendorff Verlag, Münster 2009 研究代表者の共著、680 頁) としてドイツで刊行された。研究代表者は、今後も同研究所におけるサン・ヴィクトール学派を中心としたアウグスティヌス聖書解釈学受容史の学際的・国際的研究プロジェクトにその中核的存在として参加しつつ、本研究においても同研究所との連携のうちに様々な国際学会の企画開催に参画し、また国際研究会活動に基づく研究書・論文集の刊行を欧文で行ってゆく。

### 3. 研究の方法

研究協力者としてアウグスティヌスの専門研究者である田内千里 (上智大学短期大学部、研究者番号 30453616) の参加を得て、翻訳の基礎作業を共働で行い、また研究成果を発表する。また研究代表者の本務校上智大学および他大学の大学院生に研究会形式での講読参加を呼び掛け、研究協力者と共に指導を行い、当研究が若手研究者育成機会の役割も果たすようにする。

#### 4. 研究成果

執行年度平成22年～24年度において、目標とした三つの翻訳・註解の公刊準備作業をほぼ終え、出版の最終調整段階に入ることができた。また当研究のすでに公開された成果の概略は以下の通りである。

研究代表者：中村秀樹

##### a. 雑誌論文

国内 5

計 5

##### b. 学会発表・講演

国外 4 (うち招待講演 3)

国内 3 (うち招待講演 1)

計 7

##### c. 図書

国外 5 (うち単著 1、共著 1、監修 3)

国内 1 (共著)

計 6

研究協力者：田内千里

##### a. 雑誌論文

国内 2

計 2

##### b. 学会発表

国内 1

計 1

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

①田内千里、知恵への道 – アウグスティヌス『キリスト教の教え』における「しるし signum」の意義 –、日本カトリック神学会誌、査読有、23号、2012、pp.85-104.

②中村秀樹、12世紀のプラトニズム – キリスト教神学の自己確認とプラトニズムの意義、中世思想研究、招待講演掲載、2012、54号、pp.131-139.

③中村秀樹、愛の観想 – サン・ヴィクトール学派における交わりの神学、宗教研究、査読有、2012、vol.85-4/371、pp. 280-281.

④中村秀樹、サン・ヴィクトールのリカルドゥス『三位一体論 *De Trinitate*』における理性の証示 *rationis attestatio*、日本カトリック神学会誌、査読有、22号、2011、pp. 137-166.

⑤中村秀樹、救済された理性 – サン・ヴィクトール学派の聖書神学と観想論 –、パトリステイカ – 教父研究 –、査読有、14号、2010、pp. 43-66.

⑥田内千里、アウグスティヌス『キリスト教

の教え』第一巻における *res* について、日本カトリック神学会誌、査読有、21号、2010、pp. 55-73.

⑦中村秀樹、サン・ヴィクトールのリカルドゥスの思想における愛、中世思想研究、査読有、52号、2010、pp. 1-15.

〔学会発表〕(計8件)

①中村秀樹 (Hideki Nakamura)

„Gnadentheologische Modelle des hohen Mittelalters: die Viktoriner und der Aquinate gegenüber der rheinischen Äbtissin.“

Internationaler und interdisziplinärer Kongress: „Unversehrt und unverletzt. Hildegards von Bingen Menschenbild und Kirchenverständnis heute“.

27. Februar - 3. März 2013, Erbacher Hof, Akademie des Bistums Mainz, Mainz, GERMANY.

Vortragsdatum: 3. März 2013. 招待講演

②田内千里、Tendimus per scientiam ad sapientiam – アウグスティヌスにおける知識と知恵、第61回中世哲学会大会、2012年11月10日、文教大学

③中村秀樹 (Hideki Nakamura)

„»Spiritualium gaudiorum plenitudo« in der Erkenntnislehre Richards von Sankt Viktor.“

International Congress of Medieval Philosophy : „Pleasures of Knowledge“. Société Internationale pour l'Étude de la Philosophie Médiévale (S.I.E.P.M.).

August 20-25, 2012, Freising, GERMANY.

In the special section: „Victorini“ (Chair: David Luscombe).

Date of Presentation: August 23, 2012.

④中村秀樹、12世紀のプラトニズム – キリスト教神学の自己確認とプラトニズムの意義、中世哲学会第60回大会、2011年11月6日、西南学院大学、招待講演

⑤中村秀樹、愛の観想 – サン・ヴィクトール学派における交わりの神学、日本宗教学会第70回学術大会、2011年9月3日、関西学院大学

⑥中村秀樹 (Hideki Nakamura)

„Der Glaubensvollzug in der Schriftauslegung bei Richard von Sankt Viktor.“

International conference: FIDES VIRTUS.

The Virtue of Faith in the Context of the

Theological Virtues. Exegesis, Moral Theology, and Pastoral Care from 12<sup>th</sup> to Early 16<sup>th</sup> Century. July 6-9, 2011. Facoltà Teologica del Triveneto, Padova, ITALY. Date of Presentation: July 7, 2011. 招待講演

⑦ 中村秀樹 (Hideki Nakamura)

„Die Namen der Familie Jakobs. Strukturen der Anthropologie Richards von Sankt Viktor.“  
Internationale Akademietagung: „Freut Euch, dass Eure Namen im Buch des Lebens geschrieben sind“ (Lk 10,20) Antike und mittelalterliche Quellen als Grundlage moderner prosopographischer Forschung. 23. bis 25. März 2011, Haus am Dom, Mainz Erbacher Hof – Akademie des Bistums Mainz, GERMANY.  
Vortragsdatum: 23. März 2011. 招待講演

⑧ 中村秀樹、サン・ヴィクトールのリカルドゥスの神学における理性の証示、日本カトリック神学会第22回学術大会、2010年9月13日、日本カトリック神学院福岡キャンパス

[図書] (計6件)

① 中村秀樹 (Hideki Nakamura)

Wider das Vergessen und für das Seelenheil. Memoria und Totengedenken im Mittelalter (Erudiri Sapientia: Studien zum Mittelalter und zu seiner Rezeptionsgeschichte 9), hg. von Rainer Berndt. Aschendorff Verlag, Münster 2013, GERMANY. 共著、416頁、担当 pp. 53-65: „Memoria in der Kontemplationslehre Richards von Sankt Viktor.“

② 中村秀樹

中世における信仰と知、知泉書館、2013、共著、482頁、担当 239-264頁「サン・ヴィクトール学派における信仰と知」

③ 中村秀樹 (Hideki Nakamura)

La réception de Duns Scot (Archa Verbi Subsidia 6). Aschendorff Verlag, Münster 2013, GERMANY. Rainer Berndt, Hanns Peter Neuheuser, Hideki Nakamura (Archa Verbi Subsidia Series Supervisor), vol. 6. ed. by Mechthild Dreyer / Edouard Mehl / Matthias Vollet. 総監修、344頁

④ 中村秀樹 (Hideki Nakamura)

The Opera Theologica of John Duns Scotus (Archa Verbi Subsidia 4).

Aschendorff Verlag, Münster 2012, GERMANY. Rainer Berndt, Hanns Peter Neuheuser, Hideki Nakamura (Archa Verbi Subsidia Series Supervisor), vol. 4. ed. by Richard Cross. 総監修、192頁

⑤ 中村秀樹 (Hideki Nakamura)

Kulturkontakte und Rezeptionsvorgänge in der Theologie des 12. und 13. Jahrhunderts (Archa Verbi Subsidia 8). Aschendorff Verlag, Münster 2011, GERMANY. Rainer Berndt, Hanns Peter Neuheuser, Hideki Nakamura (Archa Verbi Subsidia Series Supervisor), vol. 8. ed. by Ulrich Köpf, Dieter R. Bauer. 総監修、306頁

⑥ 中村秀樹 (Hideki Nakamura)

« amor invisibilium » Die Liebe im Denken Richards von Sankt Viktor (†1173), (Corpus Victorinum, Instrumenta 5) Aschendorff Verlag, Münster 2011, GERMANY. 単著 494頁

[その他]  
研究代表者ホームページ  
<http://librsh01.lib.sophia.ac.jp/Profiles/66/0006581/profile.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 秀樹 (NAKAMURA HIDEKI)  
上智大学・文学部・助教  
研究者番号：90468596

(2) 研究協力者

田内 千里 (TAUCHI CHISATO)  
上智大学・短期大学部・非常勤講師  
研究者番号：30453616